

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
横浜ゆレヅ	昭和51年8月16日	岩崎 有紀子	〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人岩崎学園	昭和26年3月8日	理事長 岩崎 文裕	〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-2-7 (電話) 045-311-5561																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
衛生	衛生専門課程	ビューティースタylist科	平成14年文部科学省 告示第19条	-																			
学科の目的	厚生労働省認可の美容師養成施設として、美容師をはじめ幅広く美容業界で職業人として活躍できる人材の育成を目指す。特に、美容関連企業や団体、近隣サロンとの連携を行うことで、職業実践的な知識と高い技術力、就労意識を養うものとする。																						
認定年月日	平成26年 3月 31日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
2	年間	2,040	660時間	30時間	1,350時間																		
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
320人	275人	0人	13人	11人	24人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 5段階評価 ・評価点90点以上「S」評価 ・評価点80点以上90点未満「A」評価 ・評価点70点以上80点未満「B」評価 ・評価点60点以上70点未満「C」評価 ・評価点60点未満「D」評価(不合格) 2段階評価 ・「認」評価 ・「否」評価(不合格)																			
長期休み	■学年始:4月1日～4月5日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～翌年1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	成績の評価の「S」、「A」、「B」、「C」および「認」評価を合格とし、合格した科目については、所定の単位を認定する。卒業・進級にあたっては、必修科目の単位がすべて認定されることが条件となる。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 クラス担任制をとり、定期的な個人面談を実施し、学生の適性や個性を尊重した対応に努めている。 また、より良い職業人の育成をめざし、学生生活の中に、入学年次の4月～9月の導入教育から、企業連携授業・インターンシップ、就職指導を有機的につなげるプログラムを配している。		課外活動	■課外活動の種類 校外研修、国内研修旅行、海外研修旅行 ■サークル活動: 有																			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) (株)アッシュ、(株)ケンジ、(株)Neolive、(株)トニーアンドガイジャパン、(株)レスプリ(LIPPS)、(株)THEATER、(株)柿本榮三美容室、ル・ジャルダングループ、ピラス(株)、(株)UIM ほか ■就職指導内容 就職指導部を設置し、教務部と協力した就職指導を実施。主な内容は、就職面談、面接対策指導、筆記対策指導、校内合同企業説明会開催、各業界企業セミナー開催などを実施している。 ■卒業生数 : 99 人 ■就職希望者数 : 96 人 ■就職者数 : 93 人 ■就職率 : 96.9 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 93.9 % ■その他 : (令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理容師美容師国家試験</td> <td>②</td> <td>99人</td> <td>96人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	理容師美容師国家試験	②	99人	96人								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																				
理容師美容師国家試験	②	99人	96人																				
中途退学の現状	■中途退学者 27名 令和3年4月1日時点において、在学者 257名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者 230名(令和4年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気療養、経済事情、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 クラス担任/学科リーダーによる個別面談や三者面談などで、状況把握と適切な対応。カウンセラーにおけるカウンセリング対応。奨学金の紹介や学費分割納入制度などの経済的支援。		10.5 %																				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 岩崎学園奨学生制度、岩崎学園震災特別対応基金制度、岩崎学園専門学校授業料減免制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																						
当該学科のホームページURL	https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html																						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 高等学校教育の基盤の上に深く専門的な教育を施すにふさわしい授業を行うため、就職先企業などと連携し、その要請を十分に活かしつつ、教育課程の編成に反映させることにより、職業教育の質を高める。外部の関連施設の意見を教育課程編成に反映させるための機能として、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成にあたっては、授業内容、授業方法およびその手法、法定の範囲内での授業科目の新たな開設など「教育課程編成委員会」の意見を反映させるものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 教育課程編成委員は、就職後に求められる実務に関する理論・知識・技術・技能などを十分に把握し、それを職業教育に具体化するために、特に教育課程につき意見を述べ、その編成に寄与するものとする。このため、関連業界の動向や地域の実情に明るく、かつ経験豊富で卓識をもつ者を外部委員として選任する。また、実務のみならず、学校教育についても十分な理解があることが望まれる。委員会は学校長が主催し、外部委員のほか教育課程編成にたずさわる教職員も協議に加わるものとする。協議の結果については、教員会議で共有し、学校長の判断をもって、当該年度または翌年度の教授内容、教授方法など教育に具体的に活かすものとする。また、上記の性質から「学校関係者評価委員会」とは、役割を異にし、別組織として運営を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月31日現在

名前	所属	任期	種別※
上野 真帆	一般財団法人ファッション産業人材育成機構 IFIビジネススクール 課長	R4.4.1～R5.3.31	F系①の役職者
蒲生 典子	一般社団法人ジャパン・ヘア・アート・ドレッシング・アワード・アソシエーション 運営委員 株式会社ガモウ 代表取締役執行役員社長	R4.4.1～R5.3.31	B系①の役職者
佐々木 貴夫	公益社団法人日本ブライダル文化振興協会 事務局長	R4.4.1～R5.3.31	Br①の役職者
千葉 智之	株式会社リクルート Division統括本部 ビューティDivision リサーチ & アカデミーG ホットペッパービューティーアカデミー アカデミー長	R4.4.1～R5.3.31	B系③の役職者
中村 英二	株式会社イーグラント・コーポレーション 代表取締役社長		B系③の役職者
野坂 透	マイプリント株式会社 取締役 常務執行役員	R4.4.1～R5.3.31	Br③の役職者
古田 弘美	株式会社ユークス 開発担当執行役員 横浜/LA開発室 室長・プロデューサー	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
向千鶴	株式会社INFAS/パブリケーションズ 執行役員 WWDJAPAN編集統括兼サステナビリティ・ディレクター	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
柳川 純一	株式会社オワードホールディングス人財Div.人財Sec 課長代理	R4.4.1～R5.3.31	F系③の役職者
横山 昌弘	全国理美容製造者協会 代表理事 日本ロレアル株式会社 プロフェッショナルプロダクト事業本部 営業統括本部長	R4.4.1～R5.3.31	B系①の役職者
岩崎 有紀子	横浜カレッジ 学校長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員(委員長)
小松 加代子	横浜カレッジ 教務部 部長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
江波戸 秀樹	横浜カレッジ 教務部 次長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
角館 裕美	横浜カレッジ 教務部 次長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
西木 祐子	横浜カレッジ 教務部 参与	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
市川 祐三	横浜カレッジ 教務部 参与	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
別所 慶子	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
森山 光子	横浜カレッジ 教務部 教務課 課長補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
藤重 寛志	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
佐々木 睦美	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
大塚 留美子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
篠原 夕子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
安池 かおり	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
鈴木 理恵	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
松本 みつほ	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
三富 千恵子	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
末次 友香	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
中澤 宏将	横浜カレッジ 教務部 教務課 主任補佐	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
村上 めぐみ	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
桑内 美穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
中谷 香穂	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
鈴木 寿子	横浜カレッジ 教務部 教務課 専門教員	R4.4.1～R5.3.31	内部委員
増田 隆司	横浜カレッジ 教務部 広報学生課 課長	R4.4.1～R5.3.31	内部委員

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

※学科名の略称 F系:ファッション系学科(ファッションライフデザイン学科、ファッションビジネス科)

Br:ブライダル科

B系:ビューティー系学科(ビューティーコーディネーター科、ビューティースタylist科)

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催し、7月は当該年度の中間報告として、2月は当該年度の振り返りと次年度方針についての討議を行う。

(開催日時)

第1回 令和4年7月22日 14:00～15:30

第2回 令和5年2月20日 14:00～15:30 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

令和3年度の委員会では、カリキュラム概要に加え、IT活用力の強化についての報告を行った。委員からは、コロナ禍における業界動向の変化（ECコマース）、美容市場の変化（メンズ）、社員教育としての資格取得の推奨、オンラインを活用した社員研修の実例についての情報提供や意見が出された。情報発信技術については、今後も企業と連携し教育内容の充実に努める。また、美容におけるメンズ市場の拡大については、学習内容や習得すべき技術について、女性だけではなく男性美容も意識して学ばせる必要があることを改めて確認でき、それを踏まえて、メンズヘアメイクの学内認定制度創設の準備に着手。また、ジェンダーの多様性についても教育に取り入れていく。企業での新入社員への研修等を踏まえ、本校でも早期離職を防ぐべく、学校行事やグループワークを通し、積極性や自ら勉強する姿勢、精神力を2年間で育てていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

現場に即した技術と併せて、流行性や芸術性の高い高度な美容テクニック習得を目的に、2年間の実習授業の中で、企業、業界団体、外部講師による連携授業を位置づけている。また、企業や職業人による業界説明会を開催することにより、企業やサロンの求める人材の理解促進の機会としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

本学科では、学科グランドデザインに基づき、企業と連携しシラバスを作成し下記の連携科目を実施している。企業講師や担当教員による実習を行い、課題ごとの中間発表や作品制作を通して、企業講師の評価を受けている。実習修了時には、担当教員が企業講師の評価を踏まえ総合的に成績評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容実習Ⅰ・Ⅱ	サロンで求められる美容技術について、学習教材や最新商材の提供。接客マナーやカウンセリングに関するレクチャーや業界動向についての情報提供。	株式会社ミルボン
サロン実習	現役スタイリストによるスタイリング技術とメイクアップ、撮影法のレクチャー。イメージを形にする為に必要な知識やテクニックの習得とSNSを利用した自己ブランディングの方法について学ぶ。シャンプー技術と毛髪知識の習得。	株式会社東京美髪芸術学院 (株式会社 アッシュ)
プロテクニックⅠ・Ⅱ	作品創りを通して、発想から作品制作までのプロセスを学ぶ。また、クリエイティブな仕事に触れる事で、感性を養い美容業への意欲を醸成する。また、現場に即した接客法や似合わせのテクニック・理論を学ぶことで、提案力を育成する。	株式会社 トニーアンドガイジャパン 株式会社 資生堂SABFA ピラス株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校では、平成24年4月1日施行の教職員研修に関わる規程に基づき、企業と連携した研修を行うことで産業動向や企業の人材ニーズを理解し、教育内容や就職支援に役立てることとする。研修は本校の人材育成計画に添って、①職業実践に資する知識・技術の習得 ②学生指導・教授法 ③学生サービス・支援等の内容で、年間で計画し、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

国家試験に関する事はもちろんのこと、授業の質を向上させるため職業理解や新技術の習得につながる様々な研修に参加。自己研鑽に努めている。

研修名:「美容技術理論」担当教員資格認定研修会（連携企業等:公益社団法人 日本理容美容教育センター）

期間:令和3年5月14日(金)～28日(金) 対象:河合茂樹

内容:美容師養成施設の必修科目「美容技術理論・美容実習」の授業の構成と実践についての研修。

研修名:「消費者教育教員研修」～カラーユニバーサルデザインって何だろう?～（連携企業等:神奈川県くらし安全防災局）

期間:令和3年8月3日(火)、9日(月)、11日(水) 対象:角館裕美、佐々木睦美、三富千恵子

内容:「色使いのガイドライン サインマニュアル」を使い、色覚によるバリアの例やカラーバリアフリーの実践例などを参考に色覚バリアフリーについて学ぶ。

研修名:「資生堂SABFA メイクアップセミナー」（連携企業等:株式会社資生堂SABFA）

期間:令和3年8月27日(金) 対象:角館裕美、佐々木睦美、三富千恵子

内容:2021AWトレンド・デモンストレーション・質疑応答

研修名:「美容業界に求められるユニバーサルマナーとは?」（連携企業等:株式会社ミライロ）

期間:令和3年8月27日(金) 対象:三富千恵子

内容:障害者や高齢者など多様化するお客様への対応において役立つ、自分とは違う誰かの視点に立って考える「ユニバーサルマナー」について。

研修名:「2021年秋冬ヘア&メイクトレンドセミナー 今サロンにできるサスティナブルとは」（連携企業等:WWD JAPAN）

期間:令和3年9月7日(火) 対象:角館裕美、佐々木睦美、三富千恵子、中澤宏将

内容:第1部21-22年秋冬シーズンのコレクションから最旬のヘア&メイクトレンドを学ぶ。第2部ヘアサロン版ベストコスメ。第3部今サロンにできるサスティナブルとは。第4部今注目のプロ向けアイテム。

研修名:「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」の実現に向けて（連携企業等:株式会社ミライロ）

期間:令和3年10月11日(月) 対象:角館裕美

内容:650名の障害者への調査から紐解く、課題と合理的配慮の具体的施策について。

研修名:「サスティナブルとDX」（連携企業等:WWD JAPAN）

期間:令和3年11月2日(火) 対象:角館裕美、佐々木睦美、三富千恵子

内容:なぜサスティナブルに取り組むのか、D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)について、美容業界の動向とともに考える

研修名:「メンズ美容最前線」(連携企業等:ホットペッパービューティーアカデミー)
 期間:令和4年2月15日(火) 対象:三富千恵子
 内容:盛り上がりを見せる『メンズ美容市場』の可能性と未来

研修名:「JAPAN HAIR COLLECTION spring&summer2022」(連携企業等:JAPAN HAIR COLLECTION PROJECT)
 期間:令和4年3月15日(火) 対象:三富千恵子
 内容:ヘアコレクション&トークライブ

②指導力の修得・向上のための研修等

学生指導については、学習方法や生活指導まで行う割合が高く、教員には様々な指導技能が求められている為、特にAL型授業やコミュニケーション能力向上に関する研修に積極的に参加するよう努めている。

研修名:「子どもの主体性を育む脳科学的アプローチ」(連携企業等:中央出版(株)・アイン保育園)
 期間:令和3年6月6日(日) 対象:佐々木睦美、三富千恵子【オンデマンド受講】
 内容:科学的な側面からの子供の主体性を育むポイント、自分で決める力を磨く子育て。

研修名:「PROGテストの結果及び活用についての研修」(連携企業等:河合塾グループ(株)KEYアドバンス)
 期間:令和3年6月14日(月) 対象:佐々木睦美、三富千恵子、篠原夕子、中澤宏将、牛丸薫
 内容:ジェネリクススキル測定・育成ツールである「PROG」テストの結果から分かることや重視すべき項目、注意すべき点や活用法を学ぶ。

研修名:「美容業界採用動向webセミナー」(連携企業等:株式会社セイファート)
 期間:令和3年10月14日(木) 対象:三富千恵子
 内容:コロナ禍以降の昨年から今春にかけての学生の就活動向やサロンの採用動向についての話を踏まえ、新2年生への就職指導のポイントについて。

研修名:「パワポ資料のデザイン講座」(連携企業等:学校法人岩崎学園)
 期間:令和3年11月22日(月) 対象:佐々木睦美、三富千恵子、篠原夕子、菅井陽子、草薙令子、上田友美
 内容:10分で作れるパワポ資料の作り方。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「サロンでメンズ顧客が増えない本当の理由」(連携企業等:イケメン製作所)
 期間:令和4年6月12日(日) 対象:佐々木睦美・三富千恵子・木幡桃子
 内容:メンズ市場の変化、アイブロメニューの差別化、美容師目線ではなく経営者目線での人財の活かし方&アイブロウ・ヘアスタイリングデモンストレーション

研修名:「パーソナルカラー勉強会」(連携企業等:日本パーソナルカラー協会)
 期間:令和4年5月25日(水)、6月29日(水) 対象:菅井陽子
 内容:パーソナルカラーアドバイザー認定者への講座・色の見分け

研修名:「美容技術理論」及び「美容実習」担当教員資格認定にかかる研修会 (連携企業等:公益社団法人理容師美容師試験研修センター)
 期間:令和4年11月24日(木)~12月9日(金) 対象:木幡桃子
 内容:教育理論と生徒指導、ビジネスマナーの理解と実践、美容技術理論、実習(カットting、ワインディング)、授業の構成と実践

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:科目別ルーブリック勉強会 (連携企業等:RTF教育ラボ)
 期間:令和4年6月10日(金) 対象:中澤宏将
 内容:学生の「学びの見える化」を目指すために、科目別ルーブリック作成のポイントや、効果的な評価指標の設定方法を学ぶ。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校目的を達成するための目標設定や具体的計画について、達成状況や取り組みの適切さを自己評価として行い、その結果について、本校に定める学校評議委員会が評価を行う。その目的は、学校評価の精度を上げ、客観性を高めるためのものであり、企業、地域代表、卒業生の意見を積極的に汲み取り反映させる。そのため、学校関係者評価委員会を組織し、学校の活動内容を各委員に周知するとともに、意見交換を行う機会を設ける。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像は定められているか、また学生、保護者へ周知されているか、公表されているか、等
(2)学校運営	運営会議等が定期的開催されているか、事業計画が定められているか、等
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか、等
(4)学修成果	就職率の向上、退学率の低減、卒業生の活躍、等
(5)学生支援	進路・就職に対する支援体制、学生相談の体制、経済的支援体制、等
(6)教育環境	施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか、等
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか、教育成果は正確に伝えられているか、等
(8)財務	財務基盤は安定しているか、予算・収支計画は妥当か、会計監査は適正か、等
(9)法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護の対策、等
(10)社会貢献・地域貢献	学校施設を活用した社会貢献の実施、ボランティア活動の奨励・支援、等
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

全体的な評価に加え、委員からは①実地練習ができる場所を確保する②メンズ美容に関する教育③美容師に求められる衛生管理に関する授業の実施について意見がだされた。①については、学科内にてサークルを立ち上げ、学生が放課後や夏季休暇を使用し実践学習可能な環境を整えた②については、メンズ美容についての業界動向や今後求められるスキルについて理解を深めるため、メンズ専門サロンによるセミナーを実施。③について、コロナ禍で「美容師」が改めて衛生専門分野の仕事であることを再認識する機会となったため、現場における環境衛生の必要性について、今まで以上に力をいれて取り組んでいく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月31日現在

名前	所属	任期	種別
市川 雄司	株式会社TFL 代表取締役	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員
高田 明宏	株式会社高島屋 執行役員横浜店長	R4.4.1～R5.3.31	業界・地域委員
那須野 教恵	神奈川県教育委員会 教育局 総務室 専門員 (前 県立高等学校 校長)	R4.4.1～R5.3.31	教育行政委員
夏目 哲	株式会社ブライト 代表取締役	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員
三根 慎吾	合同会社アタシ社 代表社員	R4.4.1～R5.3.31	卒業生、企業等委員
吉原 直樹	株式会社アルテサロンホールディングス 代表取締役会長	R4.4.1～R5.3.31	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()) 公開時期:毎年8月

URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育活動や学校情報を外部に提供することにより、専門学校の社会的な理解・評価を促進し、教育の質の確保・向上を図ることを目的とする。情報の提供にあたっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を把握し、その求めに応じた情報を適切に提供することを基本とし、また、その方法にあたっては、学校案内書などのパンフレット、各種説明会における説明、広報物、学校ホームページなど提供すべき情報の性質にあわせた適切な手段で行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校教育・人材養成の目標及び教育指導計画、特色、学校長名、所在地、連絡先、学校の沿革、歴史、等
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受け入れ方針及び入学定員、カリキュラム、時間割、学習の成果として取得を目指す資格
(3) 教職員	教員の紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習の取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動(ファッションショー、イベント活動)
(6) 学生の生活支援	学生支援の組織(クラス担任制)
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い(金額、納期時期等)、活用できる教材的支援措置の内容等(奨学金、授業料減免制度等の案内)
(8) 学校の財務	事業報告書、等
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	学則、厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ URL: <https://yfc.iwasaki.ac.jp/index.html>

授業科目等の概要

(衛生専門課程ビューティースタylist学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			衛生管理Ⅰ	公衆衛生の概要、予防医学と保健、理容所・美容所の環境衛生及び感染症の知識の習得。	1通	30	1	○			○			○	
2	○			保健Ⅰ	人体の構造や機能に関する科学的、系統学的知識を美容技術と関連させながら学ぶ。美容に関わりの深い皮膚・毛・爪・皮膚と付属器官の疾患について学ぶ。	1通	60	2	○			○			○	
3	○			香粧品化学Ⅰ	美容師に必要な化学・物理の基礎知識を学び安全な香粧品や美容器具の取り扱いを理解する。	1通	30	1	○			○			○	
4	○			文化論Ⅰ	日本と西洋の様々なファッションの歴史を学ぶことで、多様な美的感覚と美的視点を養う。	1通	30	1	○			○			○	
5	○			美容技術理論Ⅰ	美容技術の基本理論と、用具、薬剤、化粧品についての基礎知識を学ぶ。	1通	60	2	○			○			○	
6	○			美容実習Ⅰ	美容技術理論を踏まえて、ヘアスタイリング全般の基礎技術を学ぶ。	1通	450	15			○	○			○	○
7		○		美術	ヘアイラスト画を通じて平面から立体を学習し、ヘアデザインなどの創作力を身に付ける。立体造形の感覚も養う。	1通	30	1			○	○			○	
8		○		クラスアクティビティⅠ	今後の目標や将来を見据え、目標の実現のために必要なことを学ぶキャリアプラン教育。	1通	30	1	○			○			○	
9		○		カラーコーディネート	幅広く色についての知識と教養を身に付け、より実践的な色彩感覚を養う為パーソナルカラーを学ぶ。	1通	60	2	○	△		○			○	
10		○		コーディネート実習Ⅰ	ファッションを学ぶことで、ヘア・メイク・ファッションのトータルコーディネート力を養う。また、着付けの基礎技術を習得する。	1前	30	1	△		○	○			○	
11		○		プロテクニックⅠ	ヘア・メイク・ネイルの基礎技術を活かし、各分野のプロ講師指導による作品制作を通して専門知識・技術を深める。	1後	30	1			○	○			○	○
12		○		トータルビューティ	皮膚・爪の構造を理解し、化粧品の種類・道具の使い方を学び、ヘアスタイル・メイク・ネイルなどの基礎技術を習得する。	1通	120	4	△		○	○			○	
13		○		ITリテラシー講座	文書作成（ワード）、表作成（エクセル）、プレゼンツール（パワーポイント）などの基礎技術を身につける	1通	30	1	○			○			○	○
14		○		サービストレーニング	各業界のサービス特性やホスピタリティサービスにとらわれず、普遍的な日本人のおもてなしマインドを主軸に展開する。基本的知識習得と行動実践学習。	1通	30	1	○			○			○	○

15	○		関係法規・制度	美容師法及び関連法規の基礎知識を習得し、美容業務が行政機関の指導監督を受けながら行われている事を学習する。	2通	30	1	○		○		○	
16	○		衛生管理Ⅱ	衛生管理技術、消毒法総論と理学的・化学的消毒法と消毒法実習。	2通	60	2	○		○		○	
17	○		運営管理	美容サロンの経営管理の基本を学ぶとともに、店舗運営におけるさまざまな場面での接客の重要性を理解する。	2通	30	1	○		○		○	
18	○		保健Ⅱ	美容師にとって必要な人体の構造や機能に関する化学的、系統的知識を美容技術と関連させながら学ぶ。皮膚の構造と知識や皮膚疾患について学ぶ。	2通	30	1	○		○		○	
19	○		香粧品化学Ⅱ	美容師に必要で安全な香粧品や美容器具の取り扱いを理解する。	2通	30	1	○		○		○	
20	○		文化論Ⅱ	日本と西洋の礼装の歴史を学び、色の美的効果や美的視点から化粧と服装について学ぶ。	2通	30	1	○		○		○	
21	○		美容技術理論Ⅱ	美容技術の基本理論と、用具、薬剤、化粧品についての基礎知識を学ぶ。	2通	90	3	○		○		○	
22	○		美容実習Ⅱ	サロンで求められる美容技術を総合的に学ぶ。衛生管理の重要性についても理解する。	2通	480	16			○	○	○	○
23		○	クリエイティブ・メイク	テーマに基づき、ヘアスタイルとの調和を考えた創作性豊かな作品制作のためのメイクアップを学ぶ。	2後	30	1			○	○		○
24		○	コーディネート実習Ⅱ	ファッションとヘアメイクのトータルなコーディネートを学び、顧客への提案力を養う。	2前	60	2	△		○	○		○
25		○	国家試験対策	衛生に関する知識を学びつつ、基礎技術・基礎理論を復習、応用力をつける。	2通	60	2	△		○	○		○
26		○	サロン実習	産学連携によるサロン業務に即したヘッドスパとスタイリング技術の習得	2前	30	1	△		○	○		○
27		○	プロテクニックⅡ	産学連携により、ヘア・メイク・着付けなど、様々な美容の専門知識・技術を作品制作を通して学ぶ	2前	30	1			○	○		○
28		○	クラスアクティビティーⅡ	学園生活や行事への参加を通じて協調性を養う	2通	30	1	○		○		○	
合計					28科目	2040単位時間 (68単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各年次における必修科目を履修し、所定の単位をすべて取得した者に対して卒業を認定する。	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。